

## 第122回銀行業務検定試験「法務3級」団体最優秀賞受賞

## 愛知県信用農業協同組合連合会(JA愛知信連)

JAとともに、地域社会の豊かな  
未来の創造を目指して

今回は、去る6月3日に実施された第122回銀行業務検定試験「法務3級」において、受験した562団体のなかで団体最優秀賞を受賞されました愛知県信用農業協同組合連合会へお伺いしました。

JAグループは、農家組合員をはじめとする組合員組織を基盤に、市町村段階の農業協同組合(以下「JA」)、都道府県段階・全国段階の連合会組織で構成し、それぞれが機能分担のもと、信用事業のほか、指導事業、経済事業、共済事業、厚生事業等を展開しています。特に、信用事業においては、JA、信用農業協同組合連合会、農林中央金庫で構成するグループが「JAバンク」の総称のもと、実質的に一つの金融機関として一体的に事業を展開しています。

愛知県においては、県下JAとJA愛知信連が、適切な機能分担のもと、「JAバンクあいち」として一体的に事業運営を展開しています。

JA愛知信連は、信用事業を行う都道府県段階の連合会組織として、県下JAの事業運営をサポートする県域機能を発揮するとともに、県域を営業エリアとして事業を展開する地域金融機関・農業専門金融機関です(平成23年度期末貯金残高5兆4,871億円、自己資本比率22.66%)。

今回、快く取材に応じてくださいましたのは、JA愛知信連人事部次長の若子左右司さんとJAバンク支援部次長の藤城謙治さんです。

## ●団体最優秀賞受賞について

今回、JA愛知信連は銀行業務検定試験「法務3級」において、合格率84.00%・平均点72.40点で全国1位の最優秀賞を受賞されるとともに、JA愛知信連が指導・支援を行っている愛知県下JAにおいても合格者数(55名)で上位入賞されました。また、JA愛知信連はこれまでも法務・財務・税務の基本種目その他の種目においても上位入賞団体として幾度も優秀な成績を収められています。

今回の受賞の感想をお二人に伺いましたところ、職員一人ひとりが金融の専門家となり、各JAの職員から頼られる良き支援・相談者となるよう業務知識をしっかりと身に付けていこうとする意識が、長年の取り組みのなかで先輩職員から新入職員へと受け継がれてきているとのことでした。そうした流れのなかで、信連内に自ら進んで学習する風土が醸成され、各種目において安定的に数多くの合格者がでていますが、今回団体としての合格率が84.00%という数字になったことについては感激されたそうです。「この結果に至ったのは各職員が積み重ねてきた努力の結果であり、職員一人ひとりに敬意を表したい」とおっしゃっていました。

## ●銀行業務検定試験の合格は必須

JA愛知信連では、職員は入会后、地域金融機関・農業専門金融機関の職員として取得すべき数々の資格試験に加え、銀行業務検定試験の法務種目のほか、財務・税務・年金等の各種目についても入会早期に合格すべき試験とし、昇格要件の一つとして活用しています。

各職員の金融業務知識の基礎固めの段階で、銀行業務検定試験は、特に重要な役割を果たしているとのことでした。

各種目の受験の際には、県下JAと同様に職員に対し問題解説集の配布を行うとともに、関連する通信講座の受講を義務づけているそうです。特に法務種目については、より効果的に業務知識を修得するため、関連通信講座の受講に加え、外部講師による受験対策講座(集合研修)の受講をセットにして学習をサポートしており、通信講座の受講と集合研修とを組み合わせる体系的に法務知識を身に付ける機会を提供し、そのうえで知識の定着度を判定するものとして、銀行業務検定試験を受験させているとのことでした。

## ●JA愛知信連が目指す職員像

JA愛知信連は、県内農業の発展と豊かな地域の実現に貢献していくため、地域金融機関としての社会的な役割と責任を果たすとともに、利用者への質の高い金融サービスを提供するための高度な金融知識・技能を持った専門家集団を目指していくことを経営目標の一つとしています。

信連の各職員は県下JAを指導・支援する立場となる一方で、各JAの要望を的確にとらえ、さらなる発展に貢献することを責務とするため、一般的な金融業務の知識だけでなく農業融資特有の知識等をより一層深めることが求められています。農林中央金庫が系統組織として独自に実施する業務検定試験「農業融資実務」の合格により付与される「JAバンク農業金融プランナー」資格の取得者も増加しています。

また、信連の職員は、各JAの店舗の運営上の改善指導なども業務としており、JAの指導・支援機能を担う職員には、店舗の実態を把握したうえでの「店頭活性化研修」や「ビジネスマナー研修」等を企画・提案する総合的なコンサルティング能力を持つことも求められています。

最後に、若子さんは、「職員の皆さんには、昨今の厳しい経営環境のなか、地域金融機関・農業専門金融機関の職員としての自覚を持って、何事にも積極的に挑戦し、利用者へのサービス向上のために必要なことを考え、真摯に対応できる人材に育ててもらいたい。そして、県下JAとともに地域社会の豊かな未来の創造に貢献してほしい」とおっしゃっていました。

(お忙しいなか、取材に真摯にご対応くださいました若子さん、藤城さんに心から感謝申し上げます)



▲JA愛知信連 本店



▲若子左右司氏(左)と藤城謙治氏